

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立南小学校

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
たくましく伸びる子の育成 よく学び、工夫する子 思いやりのある子 元気で明るい子	1.基礎学力・表現力の向上 2.「生きる力」の育成 3.基本的生活習慣の確立 4.認め合い支え合う仲間づくり 5.人権教育の推進 6.健康・体力の増進

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <p>国語A、算数Aともに県平均、全国平均を下回っている。 国語Aの読むことで県平均と全国平均を若干上回った。 話すことにおいて県平均と全国平均を特に下回っている。 問題形式については国語Aの選択式で県平均を上回るものもあるが、短答式になると県・全国平均ともに下回り、記述式になると大きく下回っている。 算数についてはA、B問題ともに全ての観点で県・全国平均を下回った。特に、算数B問題において数学的な考え方が県平均や全国平均に比べ大きく下回っている。 記述式については国語同様、県・全国平均を大きく下回っている。</p> <p>県</p> <p>ほとんどの項目が、全国平均、県平均を下回るという結果ではあったが、3年間の経年比較においては、全体的にでスコアが伸びている傾向にある。 算数の領域別正答率において「図形」と「数量関係」で県平均を上回っているものがある。 いずれの教科においても文章で記述する問題や説明をする問題などにおいて県平均に比べて無回答率が高い。 (国語B1一まとめを書く本校27.0%全国7.9%、3三考えたことを書く本校48.6%、全国26%算数5(3)求め方と答えを書く本校37.8%全国13.1%)</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>将来の夢や目標を持っている児童の割合が多い。 学校が楽しい、先生は自分の良さを認めてくれていると感じている児童が多い。 朝食の習慣、就寝時刻が曖昧になっている児童が昨年度や、全国・県の平均と比べても多い。 テレビゲームを4時間以上する児童の割合が非常に増えている。 家庭での学習時間が全国や県平均に比べると低いが昨年度よりは若干増えている。 休日の家庭での学習時間が1時間未満・全くしない児童の割合が県や全国平均に比べて高い。 読書が好きな児童が県平均を上回っている。反面、授業以外(図書館や家)での読書時間が短く、全くしない児童も多い。また、授業以外で学校の図書室や地域の図書館へ行く児童が少ない。 携帯電話を持っている割合が県平均に比べて高い。 地域の行事に参加したり、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持ったりする児童の割合が県や全国平均に比べて高い。 学校の大切さや勉強の大切さは十分わかっているが、予習復習などを進んでする習慣はついていない。</p>

成果と課題	課題に対応した改善方法
<p>算数Aの1の計算では昨年度は全国平均・県平均を下回っていたが、本年度は(1,2,3,6)は、全国平均・県平均を上回っているものもある。 文章で解答したり、説明したりする問題に対しての無回答率が高い。(国語B1一まとめを書く本校27.0%全国7.9%、3三考えたことを書く本校48.6%全国26%算数5(3)求め方と答えを書く本校37.8%全国13.1%) 国語・算数ともに活用型の問題を特に苦手としているが、基礎的・基本的な定着が不十分な児童も多い。特に割り算、分数計算が苦手な児童が多い。(4)本校78.4%全国91.8%(6)本校83.8%全国90.6% 個人による基礎的な学力の差が大きく、低位層の(低学年からの)学習の積み重ねが不十分である。 算数が好きな児童の割合が高い。(昨年度37.9%本年度43.2%全国38.4%) 自分にとって難しいと感じる問題や新しく出会った問題に対して取り組む意欲が不足している(すくにあきらめてしまう。) 授業の中でめあてやまとめを書くこと、授業の振り返りを大切にしていることは児童によく伝わっている。(本年度86.5%、75.6%) 授業などで自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しいと思っている児童が多い。 朝食の習慣(昨年度82.8%本年度70.3%)、就寝時刻(昨年度31%本年度16.2%)が曖昧になっている児童が昨年度や、全国・県の平均と比べても多い。</p>	<p>授業のまとめにおいて、キーワード(大切な言葉)などを使って自分の言葉でまとめる活動を引き続き取り入れる。根拠を意識したまとめや、資料を引用したまとめのしかたなどスキルを提示する。 単元や学期・学年末などに到達度確認テストや補充、発展プリントを行ったり、過去問題を抽出し授業の中で解いたりすることで、定着の確認や授業の復習に役立てるなどする。児童が苦手としている問題を繰り返し取り組む。 朝学習や国語・算数の授業の始めなどに、漢字や計算などの小テストを行う。 中学校区で「チャイムで授業を始める」、「(話を聞くときの)よい姿勢」に取り組む。 各学年で1年間でこれだけは身に付けさせたい(重点的な)取り組みを設定し、授業外の時間や家庭とも連携しながら定着させていく。 学力・学習状況調査の問題を授業のまとめや発展的な学習として取り入れていく。 各教科で予想や自分の考えをもとにペア学習やグループ学習を取り入れ、多くの児童に自分の考えや説明を述べる機会を与える。 授業の中で国語辞典や漢字辞典の活用場面を増やしていき、自分で調べることに慣れさせていく。 音読の機会を増やしたり(授業・家庭学習)、工夫(一斉読み・グループ読み・二人読みなど)したりする。</p>

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
<p>家庭学習の手引きを学期1回家庭配布する。 家庭学習の時間、ノーマディアデーの取り組みを進める。 携帯電話の使用による弊害についてPTAと連携して児童や保護者に啓発する。</p>	<p>家庭学習が30分未満の児童の割合を下げる。 めあてとまとめがある授業の割合を上げる(課題の明確化と課題にそったまとめ方の工夫)。 グッドすいみん運動への取り組みを通して、全員が最低8時間以上の睡眠時間を確保するとともに、児童自身が就寝時刻を設定し規則正しい生活を送ることができるようにする。</p>